

第2回神奈川県流域下水道経営懇話会
議事録

日時：令和2年9月11日（金）9：30～11：30

場所：高相合同庁舎4階4A会議室

会議次第

1 開会

2 議事

(1) 神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について

(2) 神奈川県流域下水道経営ビジョンについて

(3) その他

3 閉会

【1 開会】

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 副課長

【2 議事 (1) 神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について】

(倉橋様)

質問：臭気対策のスライドにあった放射能汚染した焼却灰については、既に処理されているのか。

(事務局)

回答：国の基準に従って処理をして、現在、処理場内に放射能汚染した焼却灰はない。

(倉橋様)

質問：現時点では焼却灰に放射能は残っていないのか。

(事務局)

回答：ほぼ残っていない。なお、定期的な放射能測定は継続しており、県のHPで測定結果を公表している。

(木村様)

質問：雨天時対策のことで、近年、想定外の豪雨が多いので心配である。豪雨による浸水で、地下の発電機や電力設備が使えないといった問題が起きることはないか。

(事務局)

回答：全ての施設が対策できているという状況ではない。電気設備を高いところに上げる、壁を作るなどの耐水化の検討を始めたところである。

(木村様)

意見：横浜市で、どこかの工場が排水を未処理で下水道に流していたということを知った。1年間、そのような状況が続いていたということには驚いた。

(事務局)

回答：本来、事業場に対しては市町村権限で立ち入り検査を行っている。経営ビジョンでは、未処理で流すことがないように、取組みの強化を掲げている。

(木村様)

意見：東京都と神奈川県との間にある境川で、魚が浮かんでいることがあった。普通に流れている水を見ているだけでは水質の良し悪しは分からないので、私たちの目に見えるような形で水質保全を進めてほしい。

(事務局)

回答：下水道事業者は、放流水の水質検査を行っている。また、河川などでは、環境部局で水質検査を行い、確認している。

(木村様)

意見：分野ごとだけでなく、連携して水質問題に取り組んでほしい。

(事務局)

回答：貴重なご意見として受け止める。

(倉橋様)

質問：今後起きるといわれている南海トラフ地震で津波が想定されるが、津波対策は考えているのか。

(事務局)

回答：10mを超えるような巨大津波への対応は、地震の揺れに対する対策を進めた後、進めていく。また、小規模な津波でも、放流口から処理場に逆流して被害を及ぼす可能性があるため、海に放流する柳島水再生センターでは、放流口からの逆流防止ゲートを設置する工事を進めている。

(倉橋様)

質問：寒川平塚幹線の整備は、国道134号の道路下に貯留施設を作る取組みと同じか。

(事務局)

回答：国道134号の貯留施設は、茅ヶ崎市が、雨天時に合流式下水道の下水を一時的に貯める目的で作ったものだが、寒川平塚幹線は、右岸処理区と左岸処理区をつなぐための管渠である。どちらかの処理場で下水処理ができない事態が発生した場合に、もう一つの処理場に送ることが目的で、流域下水道事業として下水道ネットワークを構築するものである。

(木村様)

意見：神奈川県として地球温暖化対策に力を入れているので、太陽光発電をより強力にするなど、しっかり取り組んでほしい。

(事務局)

回答：下水道事業でできる対策は行っていきたい。

(倉橋様)

意見：小水力発電は1日中稼働するほか、処理水であればゴミが混じっていないため、河川で行うよりも効率的にできると考える。また、導入することで処理水の利用価値も上がると考える。

(事務局)

回答：下水道事業は、使用料で成り立っているのですが、採算が取れるのかを確認したうえで、検討していきたい。

(倉橋様)

意見：小水力発電は、売電するのに効率が良いと思う。

(倉橋様)

意見：下水に含まれるマイクロビーズが、海に流れてしまわないよう、下水処理で対応してほしい。

(事務局)

回答：下水処理は、沈殿と、生物分解で行っているが、マイクロビーズは、これらで対応できないため、難しい問題である。

(倉橋様)

意見：一般の人は、マイクロビーズのことを、あまり問題視していない。マイクロビーズを含む製品を使用しないのが一番良いが、そうはいかない。ならば、下水道が、マイクロビーズの問題を広報しても良いのではないか。

(倉橋様)

質問：処理水の有効活用の項目にある「サテライト処理」とはどういったものなのか。

(事務局)

回答：中期ビジョンでは、流域内に新しく小規模な処理施設を設置し、処理水を供給することを検討していた。しかし、費用や技術的な問題から実現していない。

(倉橋様)

意見：下水道の完備によって小河川の水量が減少している現状があるため、一気に下流に流すのではなく、上流・中流で余分な水をとって、支川に戻すことができれば、水量も安定するのではないか。

また、水辺空間が市街地に少ないことも問題である。水田が減り地面がコンクリートばかりで水を貯める機能がないため、雨が降ればすぐに洪水が起きてしまう。下水道に直接関係しないが、下水道を守るためにも考えるべきではないか。

(事務局)

回答：全国的に危惧されている問題だと認識しており、国も自治体も流域治水という考え方に变化している。流域治水は、河川整備だけではなく、まちづくりとして雨水を溜めていくもので、関係者が一丸となって取り組むものである。雨水の排除も下水道の目的であるので、下水道もこれに参画する。ただ、雨水の排除は市町が主体なので、県としては技術的支援に努める。

(木村様)

意見：殺風景な街ではなく潤いのある街にしてほしい。

また、小水力発電をするならば、実施していることを県民に周知していくことが必要ではないか。

(倉橋様)

意見：県民が下水道を身近に感じるよう、処理場内に、処理水を使った池で魚が泳いでいるような、下水を浄化していることがわかる公園があると良いのでは。また、名前も「下水処理場」ではなくて、より親しみやすい名前にしてほしい。

(事務局)

回答：名称は、平成30年9月に「処理場」から「水再生センター」に変更した。

【2 議事 (2) 神奈川県流域下水道経営ビジョンについて】

(木村様)

意見：老朽化の問題はあるが、災害対策を早急に進めてほしい。災害を受けても強力に対応できる状態であってほしい。

(事務局)

回答：災害対策と老朽化対策の工事をあわせて行うなど、効率的に進めていく。

(木村様)

意見：昨今の災害を考えると、地震・津波・豪雨等の全てに対応してほしい。

(倉橋様)

質問：横浜市や川崎市は下水道事業を市が独自に行っている。湘南地域や三浦半島地域も各市町村が独自に行っているのか。

(事務局)

回答：下水道事業は、本来、市町村が行う事業であったが、ある時期から、複数の市町村の下水道をまとめて行う流域下水道ができ、県が主導することとなった。藤沢市などいくつかの市町では単独公共下水道と、流域下水道の両方の事業があるところもある。

(倉橋様)

質問：低廉な処理費用と記載されているが、赤字になっていないのか。また、今後の計画で施設の修繕を進めていくと費用が上がるなど状況は変わるのか。

(事務局)

回答：今回説明する取り組みにかかる費用と収入を算定した後に収支が見えてくるので、はっきりしたところは言えないが、必要な費用は、県民に見える形で示して、納得いただいた上で、必要に応じて料金を上げていくことになるかと考えている。

(倉橋様)

質問：あまり県民は関心がないようだが、昔、宮ヶ瀬ダムが稼働した際、一気に水道料金が上がった。現状の経営は成り立っているのか。

(事務局)

回答：現状では、流域下水道の強みであるスケールメリットにより低廉な処理費用を実現できている。

(事務局)

説明：流域下水道の処理場では、処理場上部の有効利用として無料の広場を整備している。

(倉橋様)

意見：処理水で水車を回して小水力発電を行い、その下流にプールがあれば処理水が綺麗だとアピールできるのでは。

(事務局)

回答：綺麗とはいっても人が飲めるレベルではなく、プールの場合、人が飲む恐れがあるので難しいと考えている。

(倉橋様)

意見：生き物の生育環境として水が綺麗すぎるのは適当ではなく、多少栄養がないといけない。処理水の池で魚が泳げるような環境が作れば、子供たちの遊び場にもなる。今は安心して川遊びできるようなところがない。人工的な川や池でもあれば子供たちが水辺で遊べてよいと思う。

(事務局)

回答：河川で遊べるのが子供にとっても一番だと思うが、このような時代となっているので、今後の参考にさせてもらいたい。

(木村様)

意見：流域下水道事業が一生懸命努力しているのが、県民に伝わらないのが残念なので、広報を工夫してほしい。また、子供たちが処理場を見学できることが伝わっていない。

(事務局)

回答：難しい手続きがあるわけではないが、見学方法が伝わっていないところがある。また、見学に来ていただくこと以外に、神奈川県下水道公社では、学校に出張して授業を行っている。

(木村様)

意見：子供たちを対象にした授業だけでなく、そのお母さんたちなど親世代に向けた授業や広報を行ってほしい。

(倉橋様)

意見：若いお母さんたちと見学会に行くが、水道と違い下水道は汚いイメージがあり行きづらいようだ。また、水道のことはある程度分かっているが、下水道は勝手に流れていく上、見えないので、理解しにくいところがあるようだ。

(倉橋様)

意見：下水は資源の塊であり、もっと有効利用すべきだと思う。汚泥から出るメタンガスによる発電や小水力発電、太陽光発電などがあり、下水道では電気が一番作りやすいのではないか。

(事務局)

回答：他に熱交換の技術を用いた廃熱利用発電もあり、注目している。

(倉橋様)

意見：下水処理場は再生エネルギーの発電所のようなものである。また、これらは、災害時にも使えることから、将来性を感じる。

【2 議事 (3) その他】

なし